



新しい時代の問題、マーケティングを使って解決します！

## オクムラ経営コンサルティングオフィス ニュースレター

Ver.4 第98号

### 「知ってはいけない」を読みました！



熱中症危険度が警戒レベルに達していますが、皆さん、ちゃんと水分補給しているでしょうか。トイレが近くなるとか関係なく、きちんとお水、飲んでくださいね。ちなみに僕は、2リットルのお水に2グラムの塩を入れて飲んでます。塩味はほとんどありませんし、塩分も薄くとれます～(笑)。

さて、前振りが長くなりましたが、今回のご紹介本は「**知ってはいけない 隠された日本支配の構造** (講談社、¥990、矢部宏治著)」です。こういうカテゴリーの本を紹介するのは初めてですね。いわゆる都市伝説や陰謀論のたぐいだと思われそうですが、なかなかどうして面白くて考えさせられる内容でした。

さて、**日本国のトップは誰だと思えますか？** 国会？ 内閣？ 内閣総理大臣？ 天皇陛下？ いろいろ出てくると思いますが。本書の第4章では「国のトップは『米軍+官僚』である」というタイトルで答えを提示しています。これは何かと言うと**在日米軍のトップ層と日本のエリート官僚で作る「日米合同委員会」という組織**のことを指しています。ちなみに、スナイダーという駐日アメリカ公使は、この委員会の存在に激怒していたらしいです。普通、相手国の政府と話し合うのは大使や公使であり、その決定事項を軍人に伝えます。この委員会は米軍の軍人がメインの組織なので「シビリアンコントロール (文民統制)」をないがしろにしているのです。

終戦からサンフランシスコ平和条約の締結まで、日本はGHQに支配されていたので、治外法権下にありました。条約締結以降、日本は独立国としての道を進んでいたように見えるのですが、裏では「日米合同委員会」が、この国を支配していて、**日本はまだ治外法権下にあることを証拠を示しながら主張している**のです。これで唐突に、おかしい法律を作って無理やりに通す理由が理解できました。

幕末、幕府が欧米列強と調印した通商条約 (日本に不利な不平等条約) ですが、後の明治政府が条約改正のために物凄い時間が掛かったことを歴史教科書の一節で理解しています。**現在の日本は戦後のGHQからの支配、ある意味の「不平等条約」が、まだ裏で続いていることを本書によって知ることができました。**

僕は右でも左でもなく「真っ直ぐ」ですし、日本が大好きです。**物凄く時間が掛かるかもしれませんが、現状の「日米合同委員会」を廃棄し、イコールパートナーとしてアメリカとの関係を再構築することが必要**です。そのためには国と国民のことを真摯に考え、主体性を持つ頭の良い (バカはダメ) 政治家や官僚が不可欠です。

ただ、現状の与党や野党、キャリア官僚を観ると厳しいと言わざるを得ません。なので、嚆矢として僕が「政治研究団体」を作り、時宜を得てから「政党」に転換するのも有りでしょうね(笑)。僕の名前には「世のため人のために活動せよ」という願いが込められ、ある年齢になったら自動的に動き出すようにプログラムされているかもしれません。鬼籍に入った伯父さんが名付け親なので、聴いてみることはできませんが～(苦笑)。

オクムラ経営コンサルティングオフィス ニュースレター編集部

発行人 奥村政治

〒571-0047 大阪府門真市栄町6番9号 門真プラザ610号

発行日 2023年8月1日

TEL06-6991-9627

Email: info@1project-support.com

https://1project-support.com

Copyright 2023 オクムラ経営コンサルティングオフィス all rights reserved